

草平の灯



令和6年2月29日

No 14

山内賞受賞式

草平小の卒業生である、山内慶次さんから学校に対して育英基金が昭和35年～42年の間に送られていました。草平小の子どもたちにしっかり勉強して立派な大人になってほしいという願いを込めて「山内賞」が作られ、毎年卒業生に鉛筆が送られています。月曜日に山内賞の授賞式を朝礼の後に行いました。卒業まで残りわずかとなりましたが、山内さんの遺志をしっかり引き継いでいってほしいです。

令和6年度には、山内慶次さんのお孫さんにあたるケリーヤマウチさんを初めご親族の方がカリフォルニアから来日し、草平小に訪問していただく予定になっています。皆さんも楽しみにしてください。



6年生を送る会に向けて

各学年、6年生に対して感謝の気持ちを込めて6年生を送る会の準備を進めています。どの学年も工夫を凝らして6年生に感謝の思いを伝えようと一生懸命練習しています。3月1日の送る会当日がとても楽しみです。練習の様子や本番の様子はホームページで紹介させていただきますので、ぜひご覧ください。卒業式当日、体育館で式に参加される保護者の方には、送る会を撮影した動画を観ていただく予定です。

校長講話より

能登半島での活動を通して

3連休を利用して石川県七尾市にある能登島にがれき撤去に行きました。120世帯が暮らしている地域で、家屋の倒壊が数多くあり、生き埋めになった方もたくさんいたのですが、死者数はゼロだったということです。普段から人同士の関わりが深く、地震発生時に「～さんがいない」と分かると、近所の方で力を合わせて全員を救出できたそうです。

愛知県では、能登半島に対して関心が薄れてきている感じがしますが、まったく復興は進んでいないのが現状でした。仮設住宅もなく、断水も続き、ブルーシートで覆われ家で生活している方がほとんどでした。「輪島市や珠洲市など大きな災害が起きた地域ではないと、支援の手が届きにくく、ボランティアの活動が生きていく励みになる」と地域の方が話していました。地域の婦人会の方が、地元のお米でたくさんのおにぎりを作ってくださったり、炊き出しで名古屋から来ていたお店の方から温かいスープをいただいたり、能登島は「ありがとう」がいっぱい飛び交う温かい場所でした。がれきを片付けていたとき「がれきはゴミじゃなくて私たちの思い出なんです」と涙を流す女性の言葉が忘れられません。

草平小でも地震のことを忘れることなく能登の皆さんの平和を願い、自分たちもいつ起こるかわからない地震に備えておきましょう。能登島のように学校の中に地域の中にたくさんの「ありがとう」を増やしていけるとうれしいです。



おにぎりを作ってくれた婦人会の皆さん